

6) 特異な精神神経症状を伴った急性膵炎の 1例

藤田 菜生 (新潟大学精神医学教室)
蒲沢 知子 (新潟こばり病院 内科)

膵炎に精神神経症状を伴う例のあることは意外に知られていない。今回演者らは急性膵炎に特異な精神神経症状を伴い、いわゆる膵性脳症と考えられた一例を経験したので報告する。

症例は28歳男性、大量飲酒した後、上腹部と背部の鎮痛薬抵抗性の激痛で発症し、昭和63年9月7日午前零時新潟こばり病院受診、入院した。入院時は腹痛の他特記すべきことはない。検査値では、尿中アミラーゼ著増のほか肝機能異常、白血球増多がみられた。以上より急性膵炎および肝炎と診断された。入院後肝酵素は速やかに正常化した。膵酵素異常は蛋白分解酵素阻害剤ガベキサート・メジレートとフォスフォリパーゼA2阻害剤シチコリンの併用によって第13病日より正常化した。この間に夜間に増強する次の様な精神症状が見られた。自覚的には、「点滴ビンが自分の方に迫ってくる。」と述べられた意識変容感と共に強い不安が訴えられ、頻回に鎮静薬の注射が求められた。他覚的には、不眠、幼児的言動、思考のまとまりのなさが見られた。患者は、この時期の記憶が部分的に欠損しており、軽快後「意識に膜が張っていたようだった。」と述べている。以上の精神症状は軽度の意識障害に精神運動興奮、散乱思考を伴ったせん妄状態として捉えられよう。神経症状としては、第3病日より筋強剛、軽度構音障害が認められ、第5、6病日には後弓反張が二度みられた。第6病日の脳波所見は、退院後の所見に比べて軽度の徐波化がある。以上の精神神経学的所見はアミラーゼ値の正常化とはほぼ平行して消退した。本例の精神神経症状の成因は、肝性脳症が血清 NH_3 、脳波所見、臨床経過により除外され、後述するいわゆる膵性脳症の特徴を持つことから、膵性脳症によるものと考えられた。

膵疾患に伴う精神神経症状の最初の記載は、1929年 Istvan が報告した“めまい、頭痛、せん妄状態、強直間代けいれんを呈した急性壊死性膵炎の一例”である。1941年 Rothermich は8例の膵炎患者に見られた精神神経症状および剖検所見を検討し、膵性脳症と命名した。1980年 De Falco は、系統的な文献検索により急性膵炎患者758人中99人(13%)に精神症状が見られた、と述べている。その典型的な病像では、精神症状は腹部症状が出現してから約二週間以内に始まる。不安、不眠、焦燥

等の興奮状態に次第に意識混濁が加わる。時に幻覚、被害妄想も見られる。神経症状としては、筋硬直、けいれん発作、構音障害、腱反射増強、乳頭浮腫、巣症状等が報告されている。脳の病理組織では、灰白質に主座をおく血管周囲性脱髄、びまん性の点状出血が特徴とされている。その発症機序は、膵リパーゼの脳脂質分解作用によるものと考えられているが未確定である。

急性膵炎に意識障害と精神症状を伴った、いわゆる膵性脳症と考えられた一例を経験したので報告した。

7) 精神症状を呈した副腎皮質機能不全の1例

横山 知行・喜多川吉欽 (県立佐波病院)
谷 長行・浜 斎 (木戸病院 内科)

意欲低下、意識障害といった精神症状を主訴に来院し、入院検査中に副腎クリーゼをきたした症例を経験し、また、その精神症状及び脳波をフォローアップしたので、若干の考察を加えて報告した。

従来、副腎皮質機能不全に生じる脳波異常としては、前頭部優位の徐波化傾向、律動性 θ 波、高振幅速波の出現、開眼による基礎律動波の抑制不良、過呼吸に対する過敏性があげられており、またクリーゼ時には、前頭部優位の徐波は減少し slow α 主体になるという報告がなされていた。そして、これらは単に電解質の変動、糖代謝障害等の原因のみではなく、長期にわたるコルチゾール濃度低下に基づく中枢神経系の広汎な機能低下を反映した特徴的な脳波所見と結論づけられていた。

我々の症例においては、前頭部優位の徐波および律動性の θ 波は認められたが、過呼吸との強い関連は見られず、クリーゼ時の逆説的な正常化も認められなかった。また、内分泌機能検査目的での、Wash-out 時の脳波所見の悪化は認められなかった。したがって、本症例では脳波異常の原因は副腎皮質機能不全による低血糖、および電解質異常による機能的な脳障害による可能性が推定されたが、血中コルチゾール濃度低値との直接的な関連は認められなかった。

本症例の精神症状は、crisis 時の急性症状としての意識障害と、慢性症状としての、欲動の低下、易刺激性に大別できた。これらはいずれも cortisol の補充により急速に回復した。前者は、低血糖、電解質異常による急性外因反応型の症状として考えられた。後者については、持続的な cortisol の欠乏状態との関連が推定されたが、その機序については文献的にも明らかではなかった。